

市議会だより

- 記事内容 ●12月定例会から……………P 2 ●予算特別委員会…P 7～P 8
●一般質問……………P 3～P 6 ●常任委員会……………P 8～P 9
●議案質疑……………P 6～P 7 ●討論・陳情等……………P 9～P 10



大晦日、市職員による「なまはげ行事」

新春を迎えて

男鹿市議会議長 吉田 清孝



新年おめでとうございます。市民の皆様にかれましては、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

まして、本市は、人口の減少、少子・高齢化の進行、景気と雇用の低迷など、極めて厳しい状況にあります。また、厳しい財政状況の中で、多様化する住民要望に応え、質の高い住民サービスを提供していくためには、より一層の行政の簡素効率化が必要であり、今後、なお一層の行政改革を推進することとしております。

市議会といたしましても、市民の皆様様の望む方向性を的確に把握しながら、明るく住みよい男鹿市を創るために、議員一丸となって取り組んでまいり所存であります。市民の皆様からも、今まで以上に市政への参加をお願い申し上げます。

終わりに、今年一年が本市にとって、また、市民の皆様にとりましても、希望に満ちたよい年になりますよう心からご祈念申し上げます。新春を迎えてのあいさつといたします。

粗大ごみ有料化条例 反対討論のうえ 起立採決で原案可決

11月
臨時会
12月
定例会

平成二十二年十一月臨時会は、十一月十七日に招集され、一日の会期で開かれました。また、平成二十二年十二月定例会は、十二月三日に招集され、二十日までの十八日間の会期で開かれました。この定例会では、男鹿市廃棄物の処理及び再生利用に関する条例の一部改正、男鹿市体育施設の指定管理者の指定及び平成二十二年一般会計補正予算など、三十九議案が市長から提案され、審議の結果すべて可決・異議なしとするともに、議案三件を可決し閉会しました。

十一月臨時会

市長から議案の提案理由と諸般報告がありました。

●平成二十二年産農作物の作柄低下に伴う農家への支援について 県では、水田を主体に来年度の再生産の資金確保のため、秋田県営農維持緊急支援資金を、JA秋田みなみでは、営農経営支援資金を創設。市では、両資金に対する利子補給を予定している。

●ジオパーク推進協議会について 去る八月、潟上市とその関係団体から協議会を退会する届けを受け、ジオパーク名称を「男鹿半島・大潟村ジオパーク」と変更している。

●「環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）」締結反対！ TPP締結は、農業と地域経済にとって大きな打撃となることから、議会では議員提案

された「TPP締結反対及び緊急需給調整対策等を求める意見書」を可決し政府関係機関へ送付しました。

十二月定例会

初日、市長から市政に係わる諸般の報告と三十八議案の提案理由の説明がありました。

●単独市営住宅建設事業について 市外から子育て世帯の移住及び定住を促進し、市の活性化に資することを目的とした条例制定後、十一月二十二日に入居予定者との建物賃貸借契約の締結を終え、平成二十三年三月二十五日には、三世帯十六人が入居する予定です。

●議案第七十四号男鹿市廃棄物の処理及び再生利用に関する条例の一部を改正する条例について 粗大ごみの収集方法の変更に伴い、粗大ごみ処

十二月定例会 審議日程

12月3日	本会議
7日	本会議（般質問）
8日	本会議（般質問）
9日	本会議（議案質疑）
10日	予算特別委員会
13日	常任委員会
14日	常任委員会
20日	予算特別委員会 議会運営委員会 本会議

理手数料を定めるため、本条例の一部を改正するものである。

粗大ごみの有料化に伴い、議会として、「時期が早いのでは？」、「市民への説明不足では？」、「市民負担となるのでは？」などの意見もあつたが、今後説明会などで市民の理解を得て、実施するという旨の説明がありました。

●議案第九十九号男鹿市総合計画基本構想の変更について 社会経済情勢の変化に的確に対応するため、同構想の見直しを行い、その一部を変更するものである。簡潔に表現された印象の基本構想だが、是非実行して成果に結び付けていただきたい。

可決した主な議案

十一月臨時会

＜条例＞
●男鹿市一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正
ほか一件

議員提出議案

●男鹿市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

●環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）締結反対及び緊急需給調整対策実施等を求める意見書

十二月定例会

条例

●男鹿市行政組織条例の一部改正
●男鹿市廃棄物の処理及び再生利用に関する条例の一部改正
ほか二件

補正予算

●一般会計予算（第三号）
●国民健康保険特別会計予算（第二号）

その他

●男鹿みなと市民病院事業会計予算（第三号）ほか七件
●男鹿市総合計画基本構想の変更について
●人権擁護委員の推薦
伊藤幸子（五里台）
ほか二十三件

●議員提出議案
意見書三件

一般質問



米谷 勝 議員

史跡脇本城跡環境整備事業について

質 城跡の魅力を紹介できるガイドランス施設や展示施設についてどの様に考えているか伺います。

答 これらの施設は地元団体や案内ボランティアの活動の拠点として位置づけしております。施設整備については、地元の方も含めて、多くの方のご意見をいただきながら、よい方向に進めてまいります。

雇用確保に向けた取り組みについて

質 緊急経済対策として市所定の施設や建物などに係る小規模修繕、公共事業の前倒し発注を実施し、地元経済に即効性のある事業に予算を使う

べきと思うが市長の所見を伺います。

答 船越小学校のプールのネットも含めた市有施設の修繕や地域の要望に応じた維持補修事業の実施を検討している。また、国の交付金を活用した事業が実施できる見通しであります。

住宅リフォーム助成事業の存続と拡充について

質 住宅リフォーム助成事業は厳しい経済情勢の中、新築よりもリフォームを選択する世帯を後押ししており、来年度も継続すべきと考える。また下水道への接続工事を市の補助対象工事に拡充をすべきと考えるが市長の所見を伺います。

答 住宅リフォーム事業の存続については、今後、県の動向を見極めながら検討してまいります。また、下水道接続工事の住宅外部工事は、事業が存続した場合は補助対象といたします。

治水対策について

質 金川地区の住民説明会の内容と危険箇所防止対策について伺います。

答 平成二十年二月一日地区住民説明会を開催し、羽立、金川及び金川台地区の関係者三十一名が参加、その結果、平成二十一年十月三十日付けで上金川区域を警戒区域に指定しております。土砂災害防止法は対策工事ではなく、警戒避難体制の整備等を推進することや被害を受ける恐れのある区域を住民に周知するこ



安田健次郎 議員

環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)について

質 TPPは全ての輸出入に対する関税を撤廃する貿易の協定です。内容は農産物だけでなく、人間の移動も含まれるので雇用の問題でも大変な状態になると言われています。我国の食料需給率は、一四%

特産品開発の現状について

質 特産品づくりでは、地域全体を巻き込むことが重要であり、観光業界の協力も必要と思うが、特産品開発にどう取り組んでいく考えなのか伺います。

答 地場産品を活用した特産品の開発については、水産物の加工品開発や新たな昼食メニューの開発に取り組んでいます。また、地場産品の活用促進のため、男鹿地産地消推進店登録制度を十二月一日に開始しております。

農業対策について

質 昨年の異常気象による農業被害は、かつて経験したことのない大変な被害でした。特に水稻の作況指数は九〇、管内の一等米比率七〇%台の品質低下となり、価格は昨年より仮渡金で一俵あたり二千三百円の引き下げであります。そのため農家は、生産費の不払いが出ると思えます。市としては、JAなどの支援資

まで減少し、砂糖や小麦などはほとんど壊滅し、農業生産額は四兆一千億円、多面的機能の面で三・二兆円、実質GDPが七兆円、雇用では三百四十万人も落ち込むというこのTPPには議会でも全会一致で参加しない意見書が採択されました。市内経済に大きな影響を与えるし、市長としても何らかの対策や行動が必要と思うが見解を伺います。

答 全国市長会が農林水産省を訪問し、東北市長会が東北出身の民主党国会議員にそれぞれ慎重な対応を求める要望書を提出し、また秋田県選出

一般質問

金に対し助成が必要と思うがいかがでしょうか。また、県内各自治体の支援策が広がっています。五城目町や八郎潟町では見舞金支援、井川町ではヘリ防除代への補助などが実施されていますが、市としての独自の支援策は考えられないものか。さらに来年度の農業振興策は、今までの施策のみでなく、もっと突っ込んだ振興策が必要と思うがいかがでしょうか。

答 県の営農維持緊急支援資金及び、JA秋田みなみが創設した営農経営支援資金に対し利子補給を行うこととしています。また、来年度については、担い手の育成をはじめ減農薬米の生産や耕作放棄地の削減へ向けた新規需要米の作付拡大などを促進しながら基盤整備等を進め、地産地消については、男鹿地産地消推進店登録制度への支援や学校給食、市の行事などでの利用促進を図ります。

雇用・景気(住宅リフォーム)について

質 県の幹部も裾野の広い大

きな効果があったと言つように、住宅リフォーム助成制度は大変喜ばれています。市内の申請件数は三百七十四件で、工事費が六億九千万円以上の実績で、こうした施策は継続すべきと思いますがいかがでしょうか。



小松穂積 議員

教育について

質 前の学習指導要領は、ゆとり教育の推進を図ったものと思うが、成果・難点・課題はどうか。平成二十三年四月一日から改訂学習指導要領が完全実施されるが、本市の方針は？

答 「生きる力」の育成を図ることがねらいであり、取り組みとして「総合的な学習の時間」が創設され、本市の学校実践現場での成果として、「なまはげ」などの身近な文

しょうか。また、長引く不況就職難で市民の不安は広がっています。景気対策と雇用促進対策は、本腰を入れて取り組む必要があると思います。特に高校生や大学生などへの支援も強化すべきと思います

化に対する調査に生かして特色ある学習活動ができたこと。難点や課題は、教科の内容が精選されたことにより、学習内容が削減され、結果基礎学力としての知識の見直し、国際理解教育への取り組みが不十分であったことなど。改訂学習指導要領では、「生きる力」の育成は継承され、今回は、学力向上に向けた小中連携による実践研究、男鹿の文化を体験する活動や専門の講師によるスポーツの基礎的技術の指導、国際教養大学留学生との交流事業を通して、知・徳・体の調和のとれた育成を図ってまいります。

質 いじめ問題への対応は？また、防止の体制はどうか？

答 本年度は小学校で五件、中学校で八件、悪口、嫌がらせ等です。学校では全教職員が、生徒の日常生活をきめ細やかに観察し早期発見に努めております。必要に応じて、学校は市教委と、市教委は県教委と緊密に連絡を取り合い、

がいかがでしょうか。
答 住宅リフォーム助成事業については、県の動向を見極めながら、存続について検討してまいります。雇用と景気対策は、就業資格取得支援助成金、ホームヘルパー二級課

連携しながら再発防止に努めています。悩みをかかえる子供に対し、本市では相談員を配置しているほか、教員以外のスクールカウンセラーや心の教室相談員を配置しています。現在未解決の問題については、県の教育機関、大学の先生からも対処の仕方についてのお話しをお願いしています。

市民サービスの向上について

質 窓口の対応について伺います。

答 あいさつを励行し、親切丁寧、迅速を心掛けています。行政改革における職員の減少による支障はないか？

答 常に業務の見直しをし、より効率的な行政運営に努め、住民サービスの向上を図り、班体制により複数の職員で業務を補完し合う、いわゆるアメーバのような柔軟な組織を目指し、職員の意識の高揚を図ってまいります。

程養成研修、また県の未来農業のフロンティア育成研修の支援制度を活用し、就職に結びつくよう期待しています。

質 農業団体の統合・合併について市長のリーダーシップは？

答 農業共済については、国から県に対し一県一組合への移行を基本方針に推進することの事で、市としても県と意見交換をしております。土地改良区については、農家の負担軽減を考え、県と共に統合に関わる意見交換を進めてまいります。

除雪対策について

質 除排雪の重点対策と市民に対する協力依頼、市街地の広い道路へのストックヤードの設置はどうか伺います。

答 全市を九ブロックに区分し、バス路線、主要幹線市道等を重点とし、雪寄せ場の確保や機械除雪後の各家々の間口除雪、高齢者世帯や障害世帯への協力を町内会へ依頼しています。道路敷地内のストックヤードについては、道路法で禁止されています。

一 質



三浦桂寿 議員

課題の三Kについて

質 本市の課題である雇用・高齢化・公共交通に対する取り組み状況について伺います。

答 雇用対策としては、就業資格取得支援助成金及びみなと市民病院医師等修学資金貸与など、また、県の制度を活用しながら未来農業のフロンティア育成研修及び農業技術研修などにより就職に結びつくよう期待しているところであり、高年齢者の健康づくりについては、老人クラブ連合会、社会福祉協議会及び民間団体と連携しながら三B体操などを実施しています。今後は、介護予防教室や健康づくり講習会などの場を活用しながら進

めてまいります。

公共交通については、市では近年のバス路線の廃止・削減に対し、男鹿市公共交通総合連携計画を策定し住民のご意見をいただきながら計画を進めております。市単独運行バスは、秋田中央交通株式会社の運行形態を基本としています。乗客数は一便一日当たり、男鹿中線一・二人、五里合線二・〇人、潟西北部線一・七人と非常に少ない現状であり、今後新たな公共交通のあり方を検討する必要があると考えております。

新三Kの事業実績等について

質 男鹿版成長モデルとして教育・観光・環境を掲げられましたが、事業実績とその効果を伺います。

答 事業への取り組みとしては、全小学校の五・六年生が脇本城跡を見学したことによる教育と観光振興、柵田を借り上げ米作り体験したことによる環境及び景観保全と食育、

日本一きれいな公衆トイレを目指すという観光振興と環境美化へ取り組んでおります。また、効果としてはみなと市民病院などの照明をLEDに変更したことにより環境への負荷の軽減を図ったほか、春にはスポーツ合宿で大学剣道部の誘致が決定しており、高度な技量に直に接する機会や宿泊客が増える効果があります。

なまはげ紫灯まつりについて

質 昨年のなまはげ紫灯まつりの自家用車の乗り入れ規制



佐藤巳次郎 議員

粗大ごみ有料化を

取下げよ

質 男鹿市では、来年度から粗大ごみ、再来年度から指定ごみ袋の値上げを計画している。市民から料金を徴収するとなれば当然市民の理解が大前提である。市では、町内会

は、多くの市民から疑問の声が寄せられたが、本年は検証結果をどのように反映して開催するのか伺います。

答 実行委員会において検証した結果、多くの方が公共交通機関を利用しやすくするためJR男鹿駅と接続する臨時バスを運行することとし、料金は片道大人五百円から三百円に、子供二百五十円から百五十円にいたします。乗降場所も男鹿駅前、男鹿温泉郷のほか最終便は男鹿中・北浦両出張所を加えます。また、公共交通機関の利用が困難な方には、会場付近に駐車場を用

意しておりますが、一台当たり千円の環境対策協力をいただくこととしております。

建設工事等の電子入札の導入について

質 県では電子入札を導入しているが、本市ではどのように考えているのか伺います。

答 県内市町村で組織する、秋田県電子入札共同利用連絡協議会に参加し協議を進めてきたところであり、導入については、共同利用に係る運営経費と市内業者の受け入れ状況を勘案しながら検討してまいります。

長会議で説明したことで、幅広く意見を伺い理解と協力をお願いしてきたとして提案している。市長は市政運営の基本として「市民に開かれた市政を推進する」、「行政施策の計画過程の段階から市民が参加できる機会の創出に努める」としている。これでは逆の手法であり、市民不在の行政と

答 必要と考えますが見解を伺います。

十月から開催した町内会長等市政懇談会や有識者等委員会とする廃棄物対策協議会にも説明するなど、さまざまな見地から幅広く意見を伺いご理解とご協力をお願いしてきたところであり、

広域による生ごみの堆肥化を

堆肥化を

質 市長は環境問題については、とりわけ関心をお持ちである。家庭からのごみの中で生ごみの割合は高く、その減

量が望まれている。生ごみの堆肥化による資源循環型社会の構築についてであります。

現在、生ごみ処理は、八郎湖周辺市町村による一部事務組合で運営している。農業が基幹産業の市町村であり、特に、大潟村の広大な田畑があります。そして八郎湖の水質悪化が社会問題化されている。生ごみの堆肥化によって、無農薬の有機農産物として大きな販売効果と食への安全・安心にとってもブランド化できるのではないかと。また、八郎湖の水質の浄化に大きく寄与するものでまさに一石二鳥・三鳥の効果があります。市長は、一部事務組合の管理者であり、是非取り組んでほしいと提案するものであります。市長の所見を伺います。

答 生ごみの広域処理については、八郎湖周辺クリーンセンター建設時に検討しており、生ごみの分別や収集運搬方法、悪臭対策、費用対効果等からクリーンセンターでの処理を見送った経緯があります。今後は、公共施設等から排出される事業系生ごみの堆肥化について調査、研究し資源循環型社会の形成に努めてまいります。

三ワクチン接種

補助実現

質 九月議会で子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用の負担軽減について質問し、市長は県の動向を見ながら対応したいと答弁している。国の今回の補正予算に三ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金事業として予算化されているが、市長はどうされようとしているのか伺います。

答 子宮頸がんワクチン接種については、平成二十三年一月から女子中学生を対象として全額補助とし今議会に提案



質疑者

- 高野 寛志
- 米谷 勝
- 吉田 直儀
- 佐藤 誠
- 佐藤 巳次郎
- 小松 穂積
- 安田 健次郎
- 笹川 圭光

販売商品等の方向性について

質 本市後期基本計画において、地場産品販売センターの建設については、地場産品の供給状況を見極めながら推進するとしているが、販売商品等の考え方について伺います。

答 加工品に限らず新鮮な季節農水産物を同販売センターで取り扱うことについては、本市の生鮮食料品の量は大麦限られており、子供たちの学校給食食材としても十分な地場産品が揃っていない状態です。また、例えば魚では年間で獲れる半分はハタハタですが、時期が限られているほか調理方法を考えて販売するというのは大変難しいと考えています。

特産品販売では、首都圏での秋田県の状態を見ると本市に関しては限定された商品であり、地場産品ということでは

市民への周知徹底を

質 男鹿市たばこの吸い殻及び空き缶等の散乱等の防止に関する条例制定等の考え方について伺います。

答 現行条例では、「空き缶等」という言葉の中に、「ゴミのたぐいを含めて設定していましたが、今回、空き缶や嘔んだあとのガム、飼い犬や猫の糞、喫煙の制限、違反者への二万円以下の過料についても明文化した新条例になっています。きれいな街づくりを目指す上で、例えば、野良猫

公共交通のあり方について

質 市単独運行バスは新たに、入道崎、戸賀、加茂、安全寺線が、男鹿市公共交通総合連携計画に基づいて運行していく計画となっていますが、今まで民間で赤字だった路線を市としては、どんな工夫をして運行しようとしているのでしょうか。既に実施中の市単独運行バスは、平均乗車人数が二人程度です。民間と同

め、どういった供給体制が望ましいか検討してまいりたいと考えています。

林業振興について

質疑 現在、男鹿産木材が実際にどの程度利用され、どの程度出荷されているものか伺います。

答 平成二十二年十月までで、男鹿産の民有林千二百七十九立米程度使用されています。平成二十一年十二月、国では森林業再生プランを策定しており、今後十年間で木材受給率を現在の二八％から五〇％に引き上げる計画としています。国でも、ようやく林業に対して本腰を入れて支援体制を図るということで、市でも、先般、県が立ち上げた「農林漁業振興臨時交付対策基金」では集材材の原料を外材から県産材へ転換し、本県の豊富な林業資源の活用を図るといふことで支援すると骨格にあることから、これらも活用しながら本市の林業振興を図ってまいります。

住宅リフォーム助成事業について

質疑 本事業については、非常に経済効果があったということ、県では来年度も実施するという方針であり、本市

においても来年度の実施を望みますが、市長の見解を伺います。

答 県の方向性が決定しましたので、景気対策として、どのような事業が最も効果があるのか、これまでの形態にこだわらず、いろんな形で、市として実施したい考えです。

ジオパークについて

質疑 ジオパーク認定に向けた今後の取り組み及び認定されるためにクリアしなければならぬ条件等について伺います。

答 現在、日本ジオパーク認定に向け、大潟村と準備を進めています。認定にあたっての審査項目については、主なものとして、ジオサイト全体のテーマや科学的、教育的に見て重要なサイトの質と数があること。ジオサイトの法的な保護、住民による保全状況、ジオサイトの損傷や劣化を防ぐためのメンテナンスや保護施設の状況。また、教育や研究活動の中では、地元小中学校の児童生徒、地域の方々に向けての見学会などの実施状況、地元ガイドの養成、ガイドブックの出版。このほか、管理組織・運営体制については、運営組織が明瞭化されていること。そして地域住民によるNPOなどの参画、

運営への関与が必要となってきます。さらに、地質地形等の専門家の参画、中期的な整備計画と予算計画などがあります。その他にジオツアーの実施状況、分かりやすいジオサイトの説明看板、ジオ関連商品の開発など様々な条件があります。

この後、男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会の専門委員会における、学術研究、環境整備及び観光部門において協議し、申請に必要な資料の進捗状況を確認することとしています。また、同協議会では、平成二十三年三月にサンルール大潟で、男鹿半島・大潟ジオパーク登録推進フォーラムを開催することとしており、ジオパークに関する様々な方々から情報の提供をいただくほか、糸魚川ジオパーク関係者などの講演等も予定しています。



一の目潟

委員会・分科会の動き

各常任委員会・分科会は、付託議案と所管の予算案を審査し付託議案については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

質疑のあった主な事項は、次のとおりです。

総務

質疑 本市組織機構の再編に当たり、消防業務など市民生活に関わる所掌事務を総務企画部の所管とすること、あわせて所屬課名に「環境」を掲げ生活環境課とする考え方について伺います。

答 消防団は日常的に市民の財産や生命を守る重要な役割を担っているほか、有事の際には地域防災計画に基づき上層部の指揮のもと関係機関とともに防災活動に取り組むものです。このことから、消防団との連携を図ることが、市民の安全安心につながるため、有事以外の活動を含め総務企画部で所管することとしたものです。

また、生活環境課とする考え方については、同課では市民サービスや国民健康保険、健康づくりなど市民の生活に関する業務を所管するほか、男鹿市総合計画基本構想変更案として示しているところ、新たな重点事業のひとつとし

て「環境」を掲げ、様々な施策の推進に努めるため、「生活環境課」に改めるものです。

要望

窓口業務などを所掌する所管課については、市民が身近に感じる名称として「市民生活環境課」が適当と考えることから再度検討いただきました。との意見がありました。

質疑 敬老祝金支給で議論された条例解釈に係る今後の対応について伺います。

答 今後条例の運用にあたっては、疑義のあるものについては議会と協議しながらその対応に努めてまいります。

【所管報告】

脇本駅の無人化について

脇本駅の無人化については、利用者の減少に加え、第二次男鹿市行政改革大綱実施計画において、同駅業務維持補助金を平成二十三年度から廃止すると位置づけていたことから、地元町内会長及び脇本振興会長等への説明を行い理解が得られたものです。このことから今年度末をもって無人化とするものです。このほか、駅舎内の清掃や除雪については引き続きJRで行うほか、冬期間の暖房についてもこれまでどおり確保されるものとすとの報告がありました。

教育厚生

男鹿市廃棄物の処理及び再生利用に関する条例の一部改正（粗大ごみ有料化）

質疑 収集手数料の免除対象者については、生活保護世帯としていますが、生活保護基準以下の世帯など低所得者については、「市長が特別に認める場合」に該当しないものか伺います。

答 免除は、自然災害等で被害を受けた世帯としてこのため、生活保護基準以下の世帯を対象とする場合には、所得制限の問題もあり、「市長が特別に認める場合」として生活保護受給世帯についてのみ対象としたものです。

質疑 粗大ごみ収集を有料化することで減量化につながるという考え方について伺います。

答 有料化は、市民にごみの排出抑制、再利用、再資源化を進める動機づけを与え、排出量に応じた処理手数料をいただくことにより、ごみに対する市民意識の改革を促すこととなることから、減量化につながるものと考えています。

意見 委員から、町内会長に対する説明会だけで市民に対する事前説明会の開催がな

ったことによる手法の問題、有料化することで減量化につながるという市の考え方など納得できない部分があることから、本条例案に対しては、容認できないとの意見がありました。

以上の審査経過により、本条例案については、起立採決の結果、原案のとおり可決しました。

質疑 子宮頸がんワクチン予防接種を三回接種する必要性について伺います。

答 三回予防接種することで効果が上がるという調査結果が出ていますが、一回目の接種と二回目が一ヶ月、二回目と三回目は五ヶ月の間隔をおかなければならないため、今年度は、二回しか接種できないことから、三回目の接種費用については、新年度で予算措置し助成することとしています。

教育厚生委員会協議会

一月十九日同協議会が開催され、ワクチン接種について次のとおり報告がありました。①子宮頸がんワクチン接種対象者 高校一年生の女子（十六歳相当）まで拡大する。②ヒブワクチン及び小児用肺炎球菌ワクチン接種実施年度 今年度中に実施する。

産業建設

質疑 異常気象による農作物被害に対する支援策として、県及びJA秋田みなみが創設した支援資金の資金需要額、貸付利率及び利用見込者数について伺います。

答 資金需要額については、県が創設した営農維持緊急支援資金は一億円程度、JA秋田みなみが創設した営農経営支援資金は二億五千万円程度を見込んでおり、貸付利率はいずれも〇・五%となっております。また、利用見込者数については、十二月十日現在、両資金合わせて二百一人となっております。

質疑 なまはげ館第二期基本計画策定業務の内容について伺います。

答 本事業は、オープンから十二年目を迎えた「なまはげ館」の一層の魅力向上を図



なまはげ館

るために必要な整備の基本計画を策定するものです。整備内容は、訪れる人々と地元の人々とのふれあいや男鹿半島の伝統的な暮らしの体験ゾーン新設と男鹿半島のなまはげに関する資料のわかりやすい展示やなまはげ行事の学習ゾーンの強化を図るものです。

質疑 なまはげ柴灯まつり会場への交通手段と駐車場の対応について伺います。

答 第四十八回なまはげ柴灯まつりにおける交通手段については、できるだけ多くの方から公共交通機関を利用いただけるよう、臨時バスの料金を昨年度より安く設定したほか、乗降場所も最終便は途中二箇所を追加することとしています。また、公共交通機関の利用が困難な方には、環境対策協力金千円の協力をいただき、会場付近へ約五百六十台の駐車スペースを確保いたします。



なまはげ柴灯まつり

反対討論

男鹿市廃棄物の処理及び再生利用に関する条例の一部改正（粗大ごみ有料化）に対する反対討論

安田健次郎 議員

今定例会でも明らかになつたように、市民に何の説明や報告もなく議会に提案し決定する手法は、市民無視である。今後もしこうした手法で条例改正することは断じてやるべきではない。有料化による減量化の考え方は、粗大ごみの性質上、リサイクルや再生が簡単ではなく、時代が進むにつれ、むしろ増えていくのが現状と考える。有料化となれば市で取り扱う量が減るだけで、粗大ごみ自体はどこかに蓄積される部分が多くなる。高齢者への配慮も言っているが、集積する手法の工夫が先決で、少ない年金暮らしの高齢者から料金を徴収するのは何の配慮でもない。さらに公平性の確保とも言っているが、行政全ての業務で公平性の確保は無理で、むしろこうしたささやかなサービスは継続し、市民に喜ばれるのが当たり前である。要は、行政改革ありきで市民への負担が増すことであり、本条例案は速やかに取り下げるべきである。よって本条例案については反対であります。

陳情

● 辺野古への新基地建設、米軍訓練の全国への移転拡充を約束した「日米合意」の撤回を政府に求める陳情書

● 営農支援に関する要望書

● 大幅増員と夜勤改善で安全・安心の医療・介護を求める陳情書

● 雇用と生活をまもる施策強化を求める陳情

● 住民の安心・安全を支える行政サービスの拡充を求める陳情書

● 米軍への「思いやり予算」廃止の意見書採択を求める陳情（二件）

意見書

● 環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）縮結反対及び緊急需給調整対策実施等を求める意見書

● 住民の安心・安全を支える行政サービスの拡充を求める意見書

● 大幅増員と夜勤改善で安全・安心の医療・介護を求める意見書

● 雇用と生活をまもる施策強化を求める意見書

● 四件とも可決されたので、市議会の意見として政府関係機関へ送付しました。

杉本博治議員が逝去



杉本博治議員が病氣療養中のところ、昨年十月二十一日逝去されました。杉本議員は、昭和五十

年に初当選し、三十五年の長きにわたって市政の進展にご尽力されました。また、この間市議会議長、船川重要港湾及び国道一〇一号整備促進特別委員長など数多くの要職を歴任されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

▼ 秋田さきがけ新聞十二月二十三日付県央に、五里合地区永井親子の「クッキングコンテスト東北大会優勝」の記事が出ていました。地産地消の取り組みが審査員に好評だったとのこと。全国大会の健闘を祈る。

▼ 暗いニュースの多かった寅年から兎年へ、うさぎの様に全てにジャンプして飛躍したいものです。

▼ 市議会ではTPP反対の意見書を全会一致で可決しているが、一方において、縮小の一途をたどる日本のコメ農業に輸出で活路を開こうとの機運が高まり、アジアの富裕層を狙った動きが加速、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）をめぐる貿易自由化の流れを逆手に反転攻勢の構え。農家の皆さんの新しい発想「空中乾燥米十キロ二万円のお米有り」のテレビ報道にただただ驚くばかり！

▼ 二〇一一年は国際森林年、日本の国土の三分の二は森林です。地球温暖化問題で二酸化炭素吸収源として森林の存在感が高まり、将来性ある国民の財産である。

あなたも議会を傍聴しませんか！
3月定例会は下記の予定です

平成23年3月定例会日程（予定）

月	日	曜日	会議名	主な内容
3	1	火	本会議	市長提出議案上程(提案理由の説明)
	3	木		一般質問
	4	金		一般質問
	7	月		議案質疑、常任委員会付託、予算特別委員会付託
	8	火	予算特別委員会	付託議案の審査・分科会設置
	9	水	常任委員会・分科会	付託議案等の審査・現地調査 (総務委員会・教育厚生委員会・産業建設委員会)
	10	木		
	11	金		
	14	月		
	17	木	予算特別委員会	各分科会委員長報告、質疑、討論、表決
議会運営委員会			最終日の運営について	
			本会議	各委員長報告(総務・教育厚生・産業建設・予算特別) 質疑、討論、表決